

降り続く雨、低日照… 油断なくお過ごしください！

8月号



昭和肥料ニュース FAX版

Vol. 024

九州から西日本を中心に記録的な降水が続いています。水稻の登熟～収穫の大切な時期の荒れた天候に対し、早期回復を祈るしかできないことに悔しい思いです。しかし、ここに至ってはこれまでの土づくりと作物を信じるしかありません。「〇〇年に一度の異常天候」を常として、一層の事前の対策（土づくり）が今後益々必要となりそうです。

具体的な土づくり方法を再確認ください

作物の根が最も多く吸収するのは水で、各種栄養も水に溶けて吸われます。安定生産の実現には水の適期・適量の供給が最重要課題です。このことから、「排水性や保水性を栽培作物に合った状態とする土づくり」が目標と言えます。具体的には灌水設備の確保、蒸散防止のマルチ使用、農機作業による各種排水対策、土壌の団粒化促進、深根性のイネ科緑肥の活用、作付け時の高畝化、等々が一般に行われています。それらの具体的対策と共に、ここで再確認すべきは「排水・保水改善が最重要」という事実です。

例えばこんな使い方はいかがでしょうか？

肥料の工夫で紹介したい事例としては貝化石肥料の継続使用です。

溶出・浸透性に優れ、多孔質構造から栄養補給だけでなく、土づくり効果も非常に高いため、特に排水不良圃場や渴きすぎる圃場にはうってつけです。堆肥や有機肥料との相性も抜群です。不良圃場へは合わせてお使いください。

また、畑は一筆ごとに個性があります。優秀生産者は各圃場ごとに複数の土づくり資材を各圃場・地区に合わせて混合施用しています。コスト優先で安価な資材を一律施用していた時は作物品質にムラが出て、集荷先からの信用もイマイチだったと伺いました。機能性とコストを両立した具体例としては、安価な苦土石灰を反5袋毎回施用していたところ、貝燐丸 2袋+苦土石灰 2袋にしたり、ひかりゴールドF 2袋+苦土石灰 2袋にしたりし、微量要素補給や連作対策を狙うケースが増えてきています。お試しあれ！！

スタッフ通信

弊社スタッフの近況や
つぶやきをご紹介します♪

営業部の岡田です。
FAX通信をご覧いただき感謝です！
お盆明けに工場で電気系統トラブルが発生し復旧作業のため一時停電になりました。現在、無事復旧し生産を再開しております。迅速な復旧に弊社生産部の団結力が光る出来事でした。



貝燐丸

富山県産貝化石をベースに
リン酸・苦土を保証した総合
土づくり資材（有機JAS適合）

牡蠣殻や一般石灰には無い、
優れた溶出性・浸透性を持ち
ケイ酸・ミネラル補給も兼務できる
高機能品です。